

社外取締役メッセージ



社外取締役
佐野 精一郎

2007年6月 三洋電機株式会社代表取締役社長、2011年4月 パナソニック株式会社(現 パナソニックホールディングス株式会社)専務役員、2016年6月 同社顧問、2017年6月 当社取締役(現任)

当社の社外取締役として8年目を迎えます。当社の取締役会は、社外取締役がとて発言しやすい環境にあり、各議案についても事前に十分な情報共有がなされています。当社のガバナンス面での重要ポイントは、連結子会社の状況把握にあります。現状は、子会社のコンプライアンス上の課題まで、つぶさに報告されており、対応策までも論じられる点は評価できます。ただ今後は、それぞれ事業領域も異なる連結子会社・孫会社に対して、どこまでガバナンスを利かせるかという点について、議論が必要になるものと思われます。「連結売上高1兆円」を目指す企業集団であることも表明しており、成長に向けた積極的な姿勢も評価できます。江坂公園の魅力向上事業など、新規事業の拡大にも期待しています。今後は全社的な連携のもと、人財の確保・育成にも力を注ぎ、さらなる成長を目指してほしいと思います。



社外取締役
今別府 敏雄

2013年7月 厚生労働省医薬食品局長、2014年7月 厚生労働省政策統括官、2019年6月 当社取締役(現任)

当社の取締役会においては、医療行政や危機管理に永年携わった経験を踏まえ、短期の経営効率にとどまらない中長期の視座を提示することを心掛けた発言に努めています。また、将来に禍根を残しかねないような組織運営の疑義があれば、忌憚なく指摘することを心掛けています。取締役会では、いつも非常に熱心な議論が展開されています。また危急の議案があれば、極めて迅速に臨時取締役会が招集される点も、高く評価しています。コロナ禍での対応についても、極めて大胆かつ確に対応できていたと思います。当社グループは、自社の強みを発揮しながら、今後も順調に成長を続けるものと見ていますが、創業世代から次世代に経営のバトンが渡される場合でも、組織の硬直化を起こすことなく、風通しの良い会社であり続けてほしいと願っています。



社外取締役
伊藤 文代

2008年4月 厚生労働省医政局国立病院課看護専門官、2016年4月 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター看護部長、2019年4月 洛和会本部採用教育課部長、同年6月 当社取締役(現任)

当社の取締役会では、病院での看護・医療の仕事の経験や、医療行政に携わった経験と知見を踏まえて、当社のお客様にとっての価値が何かという視点を重視し、また当社が大切に「SHIP」理念を踏まえて発言をするように心掛けています。取締役会に付議される議案についても、「SHIP」理念に基づく経営目標や戦略が事業の現場までしっかり落とし込まれていることには敬服しています。リスク管理の面からは、災害対応、感染対策、従業員の不測事態といったことに加え、今後はカスタマーハラスメントにも十分に気を配る必要があります。これからも、揺るぎない「SHIP」理念のもと、お客様の価値を重んじながら製品・サービスの品質の改善に取り組み、新しい商品やサービスを生み出し続けることに期待しています。



社外取締役
西尾 信也

2016年4月 大和証券株式会社代表取締役副社長、2018年4月 株式会社大和インベストメント・マネジメント代表取締役社長、2021年4月 大和企業投資株式会社常勤顧問、同年6月 当社取締役(現任)

証券会社での経験と知見を活かし、取締役会では、特に金融商品取引法の主旨に照らした助言や、当社に対するレピュテーションの観点なども踏まえ、あるべき方向性について意見具申するよう心掛けています。取締役会に付議される議案は、いずれも執行サイドで十分に議論が尽くされ、論点が整理されているため、審議をスムーズに行うことができます。また各部門の責任体制も明確で、内部統制がうまく働いている点も評価しています。一方で、取締役会の運営に関し、資料の配布が直前になることがある点は少し気になっており、今後の改善に期待します。当社は、M&Aを通じて事業を拡大させていくビジネスモデルであるがゆえに、グループ企業に対する「SHIP」理念の浸透が重要な鍵を握ります。今後は、グループ全体の意思疎通が円滑に進む組織づくりに力を注いでほしいと思います。